

考える、かかわり合う活動を通して、楽しさを実感する授業づくり

兵庫県佐用郡佐用町立上月小学校

全校児童数	162名(男子78名 女子84名)
全クラス数	7クラス(内特別支援学級1クラス)
教職員数	13名(内体育専科0名)
地域のスポーツ指導者の活用(年間延べ人数)	10名

Plan…取組時の課題と目的

1 取組時の課題

本校は、3校が統合し4年目を迎えた。約6割の児童がスクールバスで登校している。児童の人間関係は安定しており、休み時間には運動場でサッカーや一輪車、遊具を使って過ごしている。社会スポーツクラブに所属している児童が多い反面、外遊びを嫌がる児童もおり、二極化が進んでいる。新体力テストの結果では、学年が上がるにつれ柔軟性が低くなっている。また、全体的に個々の力は向上しているが、全国平均の示す値よりも伸び幅が小さい。

2 取組の目的

- (1) 体力の向上を図るために
 - ・教師の指導力の向上と「考える体育授業」の推進
 - ・自分の体力に関心をもつ子の育成
 - ・友達と進んで外で遊ぶ子の育成
- (2) 運動の楽しさの体験
 - ・体力アップサポート事業の活用

Do…取組の内容

1 体育授業の中での取組

○教育課程編成の工夫・改善

- ・体育的行事と学習内容を関連付けた授業展開
- ・全学年が領域を同じ時期に実施し、効率的な用具の活用と、系統立てた指導を展開

○毎時間のめあてと工夫、振り返りを書く学習ファイルの活用

- ・「話し合う→教え合う→認め合う」授業展開
- ・毎時間、パワーアップタイムを取り入れ、児童相互が、考える・かかわり合う時間を設けた。
- ・児童が学習の見通しをもち、めあての達成に向けて相談しながら取り組むよう意識付けを図った。
- ・ファイリングにより指導と評価の資料とした。

○体力アップサポーター派遣事業の継続的活用

- ・平成25年から毎年、3・4年生に、器械運動の領域の講師を年3回(1回2時間)招聘した。
- ・全職員が参観し、教師の指導力の向上につなげた。

2 特別活動の中で

○縦割り班を活用した異年齢集団での活動

- ・全校縦割り班遊びを6年生が中心となって実施した。(ひょうごキッズ元気アップを活用)
- ・高学年が下学年に動きのこつなどを教えることで、高学年へのあこがれの気持ちが高まった。

3 保健指導・給食指導の中で

○児童の実態から学ぶ保健指導・栄養指導

- ・軽度・中度肥満児童の増加傾向を踏まえ、健康な体づくりと運動の大切さ、生活習慣病、肥満が原因となって起こりやすくなる疾病について指導した。
- ・柔軟な体とけがの発生の関係や、準備運動の大切さをテーマに系統立てた指導を展開した。
- ・生活アンケートを日常の健康な体づくりに活用した。

4 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進等

○外部人材の活用

- ・町民プール指導員による水泳実技指導を実施した。
- ・陸上練習・夏休みの体力づくりに、中学校体育担当教諭による陸上部との合同練習を取り入れた。

●工夫したこと

○授業展開の工夫と効率的・継続的な指導の充実

- ・学習のねらいを達成するため、段階的な運動を準備運動から構成し、運動の質と運動量を確保した。
- ・職員研修にて運動プログラム2009を視聴し、運動領域に合わせた準備運動を取り入れた。
- ・めあて達成に向けて話し合うことで、自他の課題や成長を発見し、ともに伸びる喜びをもてるようにした。

○専門的な知識や技能をもつ人材活用

- ・準備体操から目標達成に向けた運動を展開し、児童自身が見通しをもって学習に臨むようにした。

Check…取組成果の評価

○授業を通して

- ・一貫した授業展開により、児童が学び方を意識して学習し、授業中の児童相互の自発的な声かけが生まれ、学習意欲が向上した。

○体力アップサポーター派遣事業の継続より

- ・毎年継続することで、全児童が指導を受け、器械運動に対する抵抗感が減少した。
 - ・授業前と授業後にアンケートを実施し、児童の運動に対する意識を調査し点数化した。
 - ・挑戦 7.56→8.32
 - ・指導性 7.07→8.82
 - ・向上 7.93→8.82
 - ・充実感 7.52→8.54
 - ・親和 7.48→8.43
 - ・優越感 7.93→8.71
- 「もうすぐ出来そう」「楽しかった」と感じられたことで、児童の9割以上が、運動技能の習得に関係なく楽しかったと回答し、日々の授業改善への道が開けた。

Action…今後の課題

- 新体力テスト結果を経年比較すると、全体的に記録は伸びているが、全国平均の成長割合よりも小さい。
- 体力アップサポート事業の事後アンケートを踏まえ「できなくても楽しい」と感じる授業の創造を図る。
- 授業づくりや指導力アップ研修の機会を設定する。
- 専門的な指導力のある外部人材の活用を継続する。

◎体力の向上の取組がもたらす波及効果

○運動する楽しさ

「体の動かし方が分かる」「できそう」と感じることで、運動する楽しさにつながり、「できなかったが運動の仕方が分かった」「家でもしたい」という意欲につながった。

○運動することの日常生活化

縦割り班遊びを契機に、日常の休み時間にも、異年齢で鉄棒や一輪車を使って遊んでいる。高学年の活躍に感動する低学年や、低学年に動きのこつを教える高学年の児童の姿が見られ、外遊びが日常化している。